

令和6(2024)年度コミュニティ・スクール推進研修③実施報告

実施日：令和6(2024)年11月15日

◎ 本研修では、教職員と地域住民が学校運営に協力・参画することで、教育に対する課題や目標を共有し、一体となって児童・生徒を育む学校づくりを推進するために必要な知識や技能の習得を図ります。

第3回は、「熟議と協働のサイクルをマネジメントする術について」というテーマで実施し、41名の方が御参加くださいました。

○ 事例研究「学校運営協議会をうまく運営するポイント②

～熟議と協働のサイクルをマネジメントする術について～

宮城県利府町文化交流センター「リフノス」センター長 野澤 令照 氏

今回の事例研究では、学校運営協議会の在り方や、熟議で話し合ったことをどのように地域と学校の協働につなげていけばよいのかについてお話しいただきました。学校運営協議会の在り方としては、協議会内は忌憚なく意見を出し合える雰囲気や、校長等・教職員の異動に関わらず継続して議論ができる体制をつくっていくことなどの考えが示されました。学校運営協議会では、子どもや地域の発想を大切にしてほしいという話がありました。また、地域と学校の協働による授業の実践例についての紹介があり、協働による授業によって子どもの成長、先生の変化があったことが伝えられました。最後に、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進に向けた目安表が示されました。立ち上げ期、推進期、充実期における具体的な目安が提示されるとともに、野澤氏より「あせらず、一步一步進んでください。」との言葉がありました。学校運営協議会をどのように進めていけばよいのか、改めて考える時間となりました。



○ 協議「コミュニティ・スクールの運営上の課題を改善しよう」

受講者はグループごとにコミュニティ・スクールの運営上の課題についての協議を行いました。学校と地域の協働をうまく進めていくには、お互いを理解し合い互恵関係を構築することや、互いの立場を理解するための努力を惜しまないことなどが成功の鍵であることなど、野澤氏の話から得た新たな気づきをもとに、熱心に話し合う姿が見られました。



★ 受講者の声 ★

○コミュニティ・スクール、地域学校協働活動どちらも慌てず、ゆっくり一步一步という話を聞き少しほっとしました。関わるみんなが幸せかどうか楽しいかどうかをいつも心にもっていただいていたと思いました。

○コミュニティ・スクールの中心には、明確な校長の教育ビジョンがあることがその根拠を含め分かりました。

○学校と地域の協働の成功の鍵は、「お互いを理解し合うこと」という言葉がとても印象的でした。

○地域とともにある学校づくりのポイントは、「何をしているか」ではなく「どうやって進めているか」であることなど、新たな視点を得ることができました。

○コミュニティ・スクールが進んでいる学校は学力が向上しているということに驚きました。確かに様々な人との関わりによる気づき、主体性が高まることで学力向上につながると感じました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp